



…木曾の水の感謝祭…

三好池まつり

三好池北側のほとりに昭和63年4月、池の守り神として、三好池神社が建立されました。愛知用水通水に苦心した先人・先輩の尽力をたたえるとともに、神社には、木曾の水の恩恵を受けているわたしたちの日常生活と郷土の産業発展が永遠に続いていくようにという願いが込められています。また神社では毎年8月、木曾の水に感謝するとともに、農作業の安全と豊作を祈願する夏の祭礼「水霊祭（みたままつり）」が行われています。そして、平成元年に水霊祭で提灯を飾った祈願船が1隻、三好池に浮かべられたのが三好池まつりの始まり。その後、提灯船は徐々に増やされ、平成6年からは、現在と同様、船は7隻になりました。また花火も水中スターマインなどが加わって、年々盛大になっています。

木曾の水に感謝して

三好町の三大夏まつりの一つ「三好池まつり」が8月2日、三好池で盛大に行われました。
401個の提灯がともされた7隻の提灯船と1,200発の打ち上げ花火、水中スターマイン、ナイアガラ花火に、訪れたおよそ2万3,000人は、暑い夏の夜を忘れ、まつりに酔いしれていました。
今回は、三好池まつりを支える、三好池まつり実行委員会の皆さんにスポットを当てながら、三好池まつりの一日を紹介いたします。

CONTENTS

「特集」 p.3

三好池まつり

長寿番付

子育て支援

心の通う対話の町政進行中

「みんなのひろば」 p.10

瞳を輝かせて／パトントワリング東海大会金賞受賞

加納 彩さん（黒笹）

「まちの話題」 p.14

小中学生将棋大会、子ども一日司書体験
リサイクルステーションみよしオープンなど

「お知らせ」 裏表紙から

表紙の説明



「初めてカヌーに乗れたよ」7月30日から8月1日までの3日間、三好池で行われたカヌー教室でのひとこま。なかなかうまく乗ることができないレーシングカヌー艇。教室の3日目に初めてこぐことができた瞬間をパチリ。

三好の人口（ ）は前月比

人口……5万1,241人 (+186人)
男……2万6,370人 (+102人)
女……2万4,871人 (+84人)
世帯数……1万7,883世帯 (+86世帯)

(平成15年8月1日現在)

9月カレンダー

1 月	町長ホットライン (8:00～ ラジオ・ラフィート78.6MHz)	16 火	行政相談 (13:00～ 役場相談室) 司法書士・行政書士・土地家屋調査士合同相談 (13:00～ 役場相談室)
2 火		17 水	年金相談 (10:00～ 役場相談室) 知的障害に関する福祉相談 (10:00～ 役場相談室) こどもの相談 (10:00～ なかよし地区子育て支援センター)
3 水	年金相談 (10:00～ 役場相談室) 小さい子のためのおはなし会 (10:30～ 中央図書館)	18 木	
4 木	三好町まちづくり基本計画策定委員会 (13:30～ 役場研修室)	19 金	9月議会閉会 介護相談 (9:00～ ケアハウス寿睦苑)
5 金	9月議会開会 介護相談 (9:00～ ケアハウス寿睦苑) 心配ごと相談 (9:00～ 福祉センター)	20 土	
6 土		21 日	秋の交通安全県民運動 (～30日)
7 日	三好町消防操法大会 (8:00～ 三好公園陸上競技場)	22 月	心配ごと相談 (9:00～ 福祉センター)
8 月		23 火	秋分の日 公募第9回三好美術展 (～28日 サンアート)
9 火	9月議会一般質問	24 水	身体障害に関する福祉相談 (13:00～ 役場相談室)
10 水	9月議会一般質問 介護相談 (9:00～ 福祉センター) 人権相談 (13:00～ 役場相談室)	25 木	介護相談 (9:00～ 福祉センター)
11 木	町内保育園の入園申込書の配布開始 (各保育園)	26 金	労働なんでも相談 (10:30～ 役場相談室)
12 金	法律相談 (13:30～ 役場相談室)	27 土	おはなし会 (10:30～ 中央図書館)
13 土	おはなし会 (10:30～ 中央図書館) 皆さまと語る会 テーマ「これからの公園緑地づくり」 (19:00～ 教育学習センター)	28 日	夏季企画展「魚とりの道具-川とため池-」最終日 (9:00～16:30 歴史民俗資料館)
14 日	町民茶会 (9:00～ ふるさと会館)	29 月	
15 月	敬老の日	30 火	

※議会の日程は変更することがあります。



◀提灯の飾り付け

特集 三好池まつり



三好池まつり実行委員会
委員長
鈴木 昭弘さん（黒笹）

三好池まつりが始まって15年が経過。三大夏まつりの一つとして定着し、多くの人を楽しんでいただけるお祭りとなりました。こうしたなか、毎年、実行委員の皆さんが協力して、三好池まつりの成功に向けて、提灯船の組み立てに取り組んでいただいています。

三好池まつりは、平成元年から始まり、最初の提灯船は、手こぎボートの上に山型の提灯を飾った祈願船でした。平成2年からは、花火を打ち上げるようになり、提灯船も平成3年から平成6年にかけて、現在の7隻になりました。

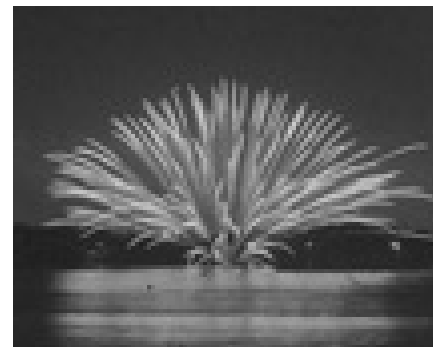
三好池が完成し、愛知用水が通水された昭和36年当時は、人口1万人に満たない町でしたが、現在は、5万人を超える町に発展しました。この発展は、愛知用水や三好池という大事業を完成させた先輩たちの努力や苦労が礎となっています。そういった気持ちを当たり前のことと思わずに、若い世代に今後も忘れないように伝えていきたいです。そしていつまでも皆さん楽しんでいただける、まつりを続けていくことがわたしたちの務めだと思います。



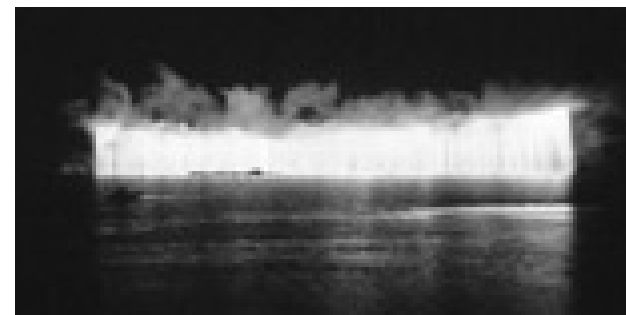
提灯船完成間近



三好太鼓クラブ



水中スター
マイン



まつりのフィナーレ「ナイヤガラ花火」



鯉の放流



提灯飾りの骨組み
づくり



提灯飾りの土台づくり

祭礼の始まり

午後4時、祭礼が始まりました。実行委員会の役員35人は、御神前にお供えをして神事を行い、最後に、提灯船から三好池に鯉を放流し、木曾の水に感謝しました。

提灯の飾り付け

祭礼の後、まつり気分を高める法被をまとった皆さんは、提灯船の最後の仕上げである、提灯の飾り付けに取り掛かりました。提灯の数は、401個。1年の月を表す12個と、日を表す365個、そして、24個の飾り提灯からなります。互いに協力し合い、提灯を下から上へ手渡ししながら、流れるように作業は進み、およそ1時間後、1年ぶりに7隻の提灯船は華やかな姿を現しました。満足いく仕事を終え、それぞれの提灯船を見上げ、自然に笑顔があふれる皆さん。ほっと一息つき、まつりの始まりを待ちます。

まつりを待ちわびて

ちやうどそのころ、池の堤防には、多くの人たちが詰めかけ、まつりの始まりを今や遅しと待ちわびていました。宵を迎え、7隻の提灯船に灯がともり、三好池の中に幻想的に浮かび上がりました。まさに三好池全体がまつりムード一色。そして午後6時30分、三好太鼓クラブの力強く、軽快な太鼓のリズムで、いよいよまつりの幕が開けました。

提灯船の組み立て

まつりの一日は、花火との幻想的な競演を繰り広げる提灯船の組み立てから始まります。まつり当日の早朝から、三好池に集まる三好町の農家、JAあいち豊田、商工会、工業経済会、愛知用水土地改良区の皆さんでつくられた、三好池まつり実行委員会のおよそ150人。三好池まつりの成功は皆さんの力にかかっています。

彼らは、まず三好池まつりの主役である提灯船に、提灯をつるすための骨組みづくりをはじめました。7隻の船は実行委員会の各団体が割り振りし、作り上げていきます。2隻がなかよし地区の農家の皆さん、残りの5隻は、きたよし地区の農家の皆さん、みなよし地区の農家の皆さん、JAあいち豊田の皆さん、商工会と工業経済会の皆さん、愛知用水土地改良区の皆さん。それぞれが自分たちの船の土台づくりや提灯をつるすための骨組みづくり、飾り付けを行います。

朝からの炎天下にもかかわらず、それぞれの船で丸となって、土台や骨組みの部品を運び、組み立てていく皆さん。1年ぶりの作業ですが、慣れた手つきで順調に作り上げていきます。まつりをたくさんの人を楽しんでもらおうという気持ち、三好池の水に対する感謝の気持ちが、次第に形となって表れ、そして、提灯をつけるための骨組みが完成を迎えました。